



分科会 3 地域医療連携、さらなる展開を考える

10月7日(日) 15:00～17:30 第3会場(アクトシティ浜松 コンgressセンター 4F 41会議室)

W-03-02

IT化による医療連携 ～「あじさいネット」へ参画による有用性について

かわむら あやこ 1,2)

1) 大村東彼薬剤師会、2) きらら薬局、

地域医療連携システムの成功例として注目を集めている、長崎地域医療連携システム、通称「あじさいネット」とは長崎県大村市において643床の基幹病院である国立病院機構長崎医療センター（以下長崎医療センターと表します）を核として開始された地域医療ネットワークシステムです。長崎医療センターのカルテの電子化に伴い構築され、2004年より開始されました。システム開始当初は、長崎医療センターと大村市内の診療所をつなぐシステムとして運用されておりましたが、H24年5月現在では長崎大学病院を含む、長崎市内の基幹病院などが加わり、情報提供をする側として14施設とその情報を利用する施設151施設を結び、情報提供施設が増えるに伴い飛躍的に会員数が増え、また、地域も長崎県央地区より、離島も含む長崎県下全体に広がっております。システムの開始当初は病診連携が中心で運用が始まったため、情報開示が入院患者に限られておりましたが、薬剤師会の参画のために外来患者の情報開示を要望し、運用から1年後、外来患者の情報開示と、試行期間を経て、当薬局を含む大村市内の5薬局でシステムを導入し運用を開始しました。現在長崎市内の薬局も含めて19薬局が参画しております。調剤薬局が参加している地域医療ネットワークシステムは全国的にも珍しいと言われております。現在、多くの処方せん応需薬局において、処方せんから読み取る情報と患者さまより口頭で聞く少ない情報源に頼る服薬指導が現状の中、あじさいネットの利用はカルテより得られる診療の記録や検査データなど、多くの正確な情報を元に処方意図の理解につながり適正な服薬指導に生かせることができ、患者さまとの信頼関係をより強くすることにつながっています。また、高いセキュリティの中で利用できる医療連携メールは主治医との連携が容易になり、現在、小児の抗てんかん薬の変更や用量の変更時に、家族より体調の変化や生活の様子を聞き、主治医に連絡する事で次回診察までのひと月の中での薬の飲み方等を指示頂いて、よりきめ細やかな対応が可能になっています。私たち薬剤師の「あじさいネット」への参画は、適正医療の構築に不可欠であり、身近な存在の薬局だからこそ聞ける患者さまの声をフィードバックする事で、アドヒアランスを向上させ、信頼される医療構築の一翼を担えると考えています。また、安定的に発展する本システムは今後、在宅医療や緩和ケア・ターミナルの見守りなど患者さま中心とした医療・介護・福祉の一元的な情報の共有化へと発展の可能性を有していると考えられます。H24年度の診療報酬改定において重点課題2「医療と介護の役割分担の明確化と地域における連携体制の強化及び在宅医療等の充実」とされ、連携による情報の共有化は今後の医療には不可欠な要素である事は間違いのないと思われ、調剤薬局における地域医療連携ネットワークへの参画は、より質の高い地域医療につなげる可能性を大いに有していると考えます。